



# 日本海の絶景と ともに「五能線」

文・写真 鉄道写真家 中井 精也

## 【表紙写真】

あきた白神駅～岩館駅にある小入川橋りょう。まるで海を渡るカモメのように、五能線の列車が大海原を横切ってゆく。奥に男鹿半島を望む。

(2016.8.11/五能線 あきた白神～岩館)



ひまわり、青空、入道雲、そして懐かしい列車。これぞ夏のローカル線の原風景  
(2016.8.11/五能線 沢目～八森)

## 輝く季節感の中を のんびりと走る

今回は夏にぴったりな海の風景を堪能できる、絶景のローカル線をご紹介します。秋田県の東能代駅と、青森県の川部駅を結ぶ、JR東日本の五能線です。全長147・2kmを誇る長大路線ですが、日本海沿岸を走るその車窓風景は変化に富み、飽きることはありません。沿線には世界遺産に登録されている白神山や、青池、黄金崎不老死温泉、千畳敷など、観光スポットもたくさんあります。

五能線の人気は高く、ローカル線としては珍しく観光列車の「リゾートしらかみ」号が観光シーズンを中心に運行されています。リゾートしらかみ号には「青池」「樫」<sup>かき</sup>「くまげら」の3編成が用意され、大きな窓から絶景を楽しみつつ、車内では地元「工芸品や特産品などの販売、展望スペースでの津軽三味線演奏、津軽弁「語りべ」実演イベントなどが開催され、鉄道ファンでなくても楽しめるように工夫されています。

上の作品は秋田県の沢目駅～八森駅にあるひまわり畑。年によって咲き方に違いはありますが、休耕田を利用した広大なひまわり畑になっており、8月になると夏らしい爽やかな風景が広がります。沢目駅に近くGoogleマップにも掲載されていますので、八峰町に開花情報をご確認のうえ訪ねてみてはいかがでしょうか。残念ながら写っている懐かしい車両は2021年の春に引退してしまいました。夏、夏のローカル線の原風景をそのまま写すことができたよう、お気に入りの作品になりました。このほか青森県側の川部駅～五所川原駅の区間では、リング畑が広がります。特に起点の川部駅～藤崎駅の区間は、まさにリング畑の中に線路が敷かれているので、5月になるとリングの可憐な花が、そして10月になるとたわわに実ったリングたちが、まるでぼんぼりのように幻想的に車窓を



車窓から日本海に沈む夕日を望む、最高の贅沢(2019.6.2/五能線 車内)



5月には可憐なリングの花が (2018.5.11/五能線 鶴泊～板柳)



ホームの目の前は日本海! (2016.8.13/五能線 轟木駅)

## メインは奇岩連なる日本海の絶景!

いろいろ見どころの多い五能線

13歳で亡くなりましたが、今はわさお君の娘の「ちよめ」ちゃんが、観光客を迎えてくれるそうです。

ですが、なんといっても最大の見どころは、奇岩連なる日本海の絶景です。

3ページ上の写真は、十二湖駅～陸奥岩崎駅にある「ガンガラ穴」と呼ばれる名所を行くシーン。車窓から見えるのは一瞬の絶景ですが、奇岩に囲まれた入り江



箱庭のような入り江を見ながら、奇岩を貫く(2016.8.27/五能線 十二湖～陸奥岩崎)



ブサかわ犬「わさお」君参上! (2018.5.13/五能線 鱈ヶ沢～鳴沢)



インスタ映え日本一?の駅舎も (2018.5.13/五能線 木造駅)

を走る姿は、とても絵になります。秋田県のあきた白神駅付近から青森県の鱈ヶ沢駅付近にかけて、ほとんどの区間で車窓から日本海の絶景を堪能できますので、川部行ききの列車なら車窓左側、東能代行ききの列車なら車窓右側の席に座りたいところです。なかでも

おすすめは3カ所。まずはあきた白神駅と岩館駅の間にある小入川橋りょう。続いては岩館駅を出て須郷岬を越えた辺りの奇岩連なる車窓風景。そしてハイライトは深浦駅から千畳敷駅の間で、この区間はずいっと日本海の絶景が車窓を飾ります。

飾ってくれます。またその周辺では、勇壮な岩木山を望むことができます。リング畑の奥にそそり立つ岩木山の風景は、ここでしか味わうことのできない、旅情たっぷり車窓風景といえるでしょう。

### インパクトある映えるスポットも!

3ページ右下の、まるで特撮映画のように街を見下ろす巨大な土偶。このインパクトのある建物のは、なんと五能線の木造駅の駅舎です。近くにある亀ヶ岡石器時代遺跡から出土した遮光器土偶を模した駅舎は、日本一のインスタ映え駅といえるのではないのでしょうか。3ページ左下の写真は、ブサかわ犬として一躍有名になった「わさお君」。実はわさお君の暮らしていたイカ焼き店は、鱈ヶ沢駅に近い五能線の線路のすぐ脇にあるのです。列車が来るタイミングに合わせて、ニッコリとほほ笑む姿は、さすがスター犬! 残念ながらわさお君は2020年6月に

めは日本海に夕日が沈む夕暮れの間時間。車窓から日没の風景を眺めれば、日頃の疲れたココロも癒やされることでしょう。最後にぜひ立ち寄ってもらいたい駅をご紹介します。それは日本海のすぐそばにある絶景駅、轟木駅です。轟木ではなく、馬が三つで轟木と書くのは、冬の日本海の荒波の音に驚いた荷馬車の馬たちが、四方八方に逃げていったという伝説からきているとか。下車しても海以外に何もありませんが、それがまた最高なんです。のんびりと駅のベンチに座って、日本海を眺めるのは、いつまでも心に残るともぜいたくな時間なのです。

### 海の見える駅でのんびり過ごす ぜいたく

旅をするならおすすめ

〈なかい せいや〉  
1967年東京生まれ。鉄道車両だけにこだわらず、鉄道に関わる全てのものを被写体として独自の視点で鉄道を撮影する。広告、雑誌写真の撮影のほか、講演やテレビ出演など幅広く活動している。著書・写真集に『1日鉄!』『デジタル一眼レフカメラと写真の教科書』など多数。株式会社フォート・ナカイ代表。公益社団法人日本写真家協会(JPS)会員、日本鉄道写真作家協会(JRPS)会員。